



日本専門新聞特集号

発行 公益社団法人
日本専門新聞協会
編集 広報委員会
住所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門
1-2-12 第2興業ビル
TEL.03-3597-8881 FAX.03-3508-8888
http://www.senmonshinbun.or.jp

入選キャッチフレーズ

日本専門新聞協会は、第76回新聞週間にちなみ「新聞週間キャッチフレーズ」を全国から募集していたが、その入選が次のように決まった。(敬称略)

- 〔優秀作〕** 激動の時代の潮流 読み解いて 宮下瑛奈 (一般応募)
- 〔佳作〕** デジタル化 情報溢れる 世の中で 金山莉子 (一般応募)
- 〔佳作〕** 文字から伝わる 専門新聞 読み解いて 浜口直樹 (一般応募)
- 〔佳作〕** 変わりゆく 社会の流れ 読み解いて 浜口直樹 (一般応募)
- 〔佳作〕** 進路を示す 専門新聞 読み解いて 浜口直樹 (一般応募)

令和5年 第76回 新聞週間

日本専門新聞大会 フェスティバル

第1部 宮家 邦彦氏が講演



例年、盛況の講演会会場



宮家 邦彦先生

公益社団法人日本専門新聞協会(入澤亨理事長)は、10月18日に東京・千代田区内幸町の帝国ホテル「孔雀東の間」において「第76回新聞週間 日本専門新聞大会フェスティバル」を開催する。

過去3年間は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止、また拡大防止に配慮しながらの実施であったが、今回は通常通りの開催となる。

同フェスティバルは、10月15日から一週間にわたる新聞週間に合わせ、公益目的事業であり、かつ専門新聞として社会の期待に応える決意を内外に示す事業として開催している。

幅広い国民の皆様、専門紙読者、政官界、経済界をはじめ各国大使館など多くの方々を招いているが、レセプションが4年ぶりの開催であることなどから多数の出席が見込まれる。

フェスティバル第1部は午後2時30分から、キヤノングローバル戦略研究所研究主幹宮家邦彦氏を講師に招き「地政学と日本の大戦略」と題する講演会が行われる。

協会だより



「令和5年5月24日(水)」第100回定時総会を如水会館3階において開催。令和4年度事業報告、同収支決算報告を審議議決承認した。

「令和5年5月12日(金)」令和4年度第56回協会関西支部

定時総会を開催し議案を承認した。

「令和5年9月7日(木)」新聞週間にもない募集していたキャッチフレーズ審査会を開催。令和5年度キャッチフレーズ入選作品第一次選考を行い1726点の中から16点を選考し、理事会に提出した。

第76回 日本専門新聞大会

大会アピール

世界はこの数年パンデミックや気候変動、地政学リスクで危機に直面している。我が国はまだまだ新型コロナウイルス感染症の影響から完全に脱却しておらず、まさに物価高騰や少子高齢化など問題が山積している。

また、デジタル社会の進展そしてAIの出現などにより、産業界を取り巻く事業環境は大きく変貌しようとしている。

このような経済・社会が不透明な時こそわれわれ専門新聞の時代であり、ますます重要性は高まっている。

今こそわれわれ専門新聞は、その使命に立ち返り、公正かつ迅速・的確な報道に徹し持続可能な社会の実現に寄与することを、ここに宣言する。

大会スローガン

- 専門分野のトレンドをわかりやすく、最新情報を発信しよう!
- すべての専門新聞への消費税軽減税率の適用を実現しよう!
- 国民の知る権利に応えるため、第三種・第四種郵便制度堅守しよう!

総勢 15 人を表彰

日本専門新聞協会は、新聞週間に合わせて加盟社の社員に対し表彰を行っているが、令和5年度は総勢15名を表彰することになった。(敬称略)

《表彰》	
功績章	
金子 真紀子	(国際農業社)
三浦 祐成	(新建新聞社)
上原 里智男	(輸送新聞社)
役員表彰	
吉倉 龍也	(環境新聞社)
優良社員表彰	
武田 信	(環境新聞社)
塩野 紗恵	(観光経済新聞社)
清野 卓哉	(建設新聞社)
館野 真敏	(建通新聞社)
志茂 大輔	(中建日報社)
曾末 勇介	(塗料報知新聞社)
吉田 裕子	(日本工業経済新聞社)
金井 幸司	(日本工業経済新聞社)
斎藤 美佐子	(福島建設工業新聞社)
佐藤 鎮士	(福島建設工業新聞社)
感謝状	
阿部 勲	(日本専門新聞政治連盟 特別顧問)

「令和5年9月8日(金)」第30回日本専門新聞写真コンクールを、当協会が要請した日本写真協会会員2名の審査員が行った。全国から応募

された1048点を審査した結果、文部科学大臣賞、理事長賞、審査委員長賞、加盟社特別賞をそれぞれ1点、秀作15点を選考し、新聞大会で表彰することとした。

「令和5年9月13日(水)」第546回定例理事会においてキャッチフレーズ審査会

で先に行われ、16点の作品の中から優秀作1点、佳作2点をそれぞれ選考し、新聞週間に合わせて発表することとした。

第76回 日本専門新聞特集号 挨拶



時代の転機に於ける 専門紙の使命

公益社団法人日本専門新聞協会 理事長 入澤 亨

第76回新聞週間、日本専門新聞大会開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

日本専門新聞協会は公益法人制度改革に伴い、平成24年に内閣府より公益社団法人として認定され、爾来、新聞大会をはじめとする各種公益事業活動を展開し今日に至っています。

協会の長い歴史のなか、今春の定時総会にて総会開催の回数は100回を超えました。また理事会開催回数も550回を数えるなど、協会は長い歴史と伝統を誇っています。

これもひとえに、関係諸官庁、諸先輩方並びに加盟社の皆様のご支援の賜

物と心より深く感謝申し上げます。

海外を俯瞰しますと、ロシア・ウクライナ戦争はなお続き、まったく停戦の糸口が見えません。東西陣営のイデオロギーの対立から戦況はエスカレーションするばかりで、双方に多数の死傷者をはじめ甚大な被害が生じています。

また、隣国中国は覇権主義により近隣諸国との軋轢が絶えず、加えて自国経済の減速が鮮明になるなど、我が国を長年苦しめたデフレに陥る懸念があります。

台湾問題や半導体などの先端技術分野では米中間の緊張感が高まり、今後全く予断を許しません。そのような

状況下、我が国は周辺域での軍事的緊張の高まりを背景に、国家安全保障に関する基本方針である国家安全保障政策を策定し、戦後長く続いた安全保障政策を大きく転換したことは記憶に新しいところです。

国内では、新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、コロナ発生前に近い日常が戻って来ましたが、同時に物価上昇・インフレが襲来し、国民生活に深刻な影響を与えています。しかし、雇用情勢・個人消費・設備投資などに持ち直しが見られるなど、我が国の経済に大きな変化が表れている現状を奇貨と捉え、将来に向けて持続的成長に繋げていく為新たな成長戦略の練り直しが求められます。

ところで、岸田首相は先、新型コロナウイルスウイルス禍の混乱を「デジタル敗戦」と表現したように、諸外国に比べ我が国では国民生活全般でのデジタル化の遅れが鮮明であります。

しかし、官民挙げてデジタル革命を全力で推し進めているなか、AI（人

工知能）技術が急速に進化し、特に文書や画像などのデータを生成する生成AIが驚異的に進展しています。生成AIはメディア業界に限らずに、あらゆる産業で利用されはじめており、ご承知の通り社会全般に大きなインパクトを与えています。

専門新聞協会を含むメディア業界は生成AIをはじめとする日々進化し、大きく変容する情報通信技術の洗礼を受けながら大変難しい環境下にありますが、当協会は少しでも加盟社の皆様にとって魅力的な価値ある協会を目指して鋭意取り組んで参ります。

今年度はコロナ禍でしばらくの間中止していましたがレセプションも通常通りに開催いたします。

皆様には、是非この機会にお互いに懇親を深めていただきたいと思っております。本日は大変お忙しい中、多数ご参集賜り厚く御礼申し上げます。

今後共、皆様のご指導並びにご鞭撻を何卒、宜しくお願ひ申し上げます。



日本独自の「国平和主義は限界へ」 吉田元首相在任中 「国防は自国防衛が原則」と

日本専門新聞政治連盟 会長 大塚 一雄

第七十六回新聞週間日本専門新聞フェスティバルの開催にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。コロナウイラス感染症のパンデミックにより、日本人は約三年半以上に亘り、全ての生活環境が拘束されて蟄居状態を余儀なくされ、何とも不自由な生活を経験いたしました。

たまたまコロナ感染症と同時に進行の形で、ロシア・プーチンによる隣接国ウクライナへの本格的戦争の勃発という二つの歴史的な大事件に遭遇いたしました。

コロナ禍も未だ完全に終焉したわけではありませんが、今回発症したこの新型コロナウイルス感染症で犠牲になつた全世界の人びとは、非公認統計ながら約670万人と言われていると推定されています。

またウクライナ戦争では、攻める側のロシアの兵士を含めてウクライナ兵士共々、約19万人がすでに犠牲になっていると言われています。

民間人を含めて、また戦争により破壊された家屋建物その他軍施設等を含めての損失は膨大であり、加えて攻める方も攻められる方の市民たちもその精神的消耗は、それこそ図りしれないものがあります。また最近では核兵器使用の話がチラホラ出ています。

要するに地球上のいかなる国でもまた地域でも、「戦争」という人間同士の「殺し合い」は、絶対に起こしてはならないということでもあります。しかしそのことは分かっているが、国対国の利害対立による「戦争」という非人間的な争いは、地球上に人間が息をする限り、必ずや起こり得る宿命かもしれないかもしれません。

ところでここ数年、わが国日本をとり巻く国際情勢と環境はかなり厳しくなつてきております。

五千年有余の歴史があり、人口では14億3千万人近くと世界第二位

の中華人民共和国は、ここ数十年で世界有数の経済的大国となり、それに伴って「一帯一路」という国家政策と相まって、いまや世界的な覇権国家となつております。

と同時に同建国の父とされる毛沢東主席の再来政治家とも言われる習近平主席の大号令のもと、故・毛主席以来の懸案でもあった台湾統一のための攻略作戦を近い将来は是非でも実行すると世界に向けて宣言しています。

また朝鮮民主主義人民共和国も、中国の台湾攻略と同時に進行の形で、いまの大韓民国の合併統合のため、その背後に存在する駐韓米軍を要するに米国に向けて、ここ数年盛んにミサイル発射の実戦訓練を実施しております。

度重なる同国発射のミサイルは、しばしば日本海の排他的水域に落下し、その都度日本国内では警戒警報のアラームが鳴り響き、要注意の準戦時体制にあります。

また第二次大戦後政治的に粘り強く返還交渉を繰り返してきた長年懸案の北方領土問題。そのうち択捉・国後両島の日本への返還問題は、今回のウクライナ戦争問題を契機に完全に暗礁に乗りあげました。

これら三方は、それぞれが核兵器

保有国でもあります。

日本は今年七月開催の広島での先進七カ国会議宣言の通り、核保有は勿論のこと、核兵器使用は絶対反対の立場であります。

また、侵略戦争は絶対にしないとする平和憲法第九条事項を頑なに守り続けている世界唯一の「平和主義国家」でもあります。

しかし戦後日本の建国の「父」とも言われる故・吉田元首相は在任中に、「いつまでも自国防衛を他国の軍力に頼るべきではない。自国の軍備強化こそ、自国防衛の最大条件である」と云々と力説していたといわれています。

いま日本の防衛問題が最大の危機的状況にある時、岸田内閣総理大臣をはじめ国会議員の諸先生方は、この戦後最大の「国難」をどう乗り切るのか？日本国並びに億三千万人の日本人の命運は、それら国政にかかっているのです。

それぞれの専門分野を代表する報道集団をバックにする私ども日本専門新聞政治連盟は、それら諸先生方の政治的活動を全面的に支援するため、全力をあげて協力する覚悟であります。

読者総数は1,200万人に

専門分野から厳選された 協会加盟社81社



芝公園のもみじ谷の モニュメント

『複眼的報道の塔』



時代を見すえ悠久の時を刻む ソーラー電波時計

平成16年10月、25年後の後進に夢を託し、塔の基礎部分には当協会の歴史と伝統を次の世代に伝えるため、各加盟社発行の記念紙に記念品を添えて収納し建立したものです。

石原慎太郎元東京都知事をはじめ、都議会議員、建設局長等の協力と支援を得て、都立公園では130年と最も古く、由緒ある芝公園内に、ソーラー三面電波時計付き「複眼的報道の塔」を建立・寄贈したものです。

役員活動体制

<協会役員・顧問>

名誉会長	波田幸夫	(環境新聞社)
理事長	入澤 亨	(官庁通信社)
副理事長	石井貞徳	(旅行新聞新社)
専務理事	須貝律緒	(日本専門新聞協会)
常任理事	積田朋子	(観光経済新聞社)
〃	古川興一	(創樹社)
〃	金子眞紀子	(国際農業社)
〃	河合良紀	(建設新聞社)
理事	篠本 勝	(日本水道新聞社)
〃	林 初男	(日本工業経済新聞社)
〃	間庭正弘	(日本電気協会新聞部)
〃	仁平英紀	(東京交通新聞社)
〃	福島眞明	(水道産業新聞社)
監事	有馬弘純	(塗料報知新聞社)
〃	秋山智昭	(秋山弁護士事務所)
顧問	大塚一雄	(金融タイムス社)

<政治連盟役員・顧問>

会長	大塚一雄	(金融タイムス社)
副会長	岸田義典	(新農林社)
幹事長・会計幹事	小屋勝志	(カーアンドレジャーニュース)
副幹事長・会計幹事	須貝律緒	(日本専門新聞協会)
幹事	長島貴好	(アイク)
〃	積田朋子	(観光経済新聞社)
〃	仁平英紀	(東京交通新聞社)
〃	大林洋介	(教育新聞社)
監査	金子眞紀子	(国際農業社)
〃	秋山智昭	(秋山法律事務所)
名誉顧問	波田幸夫	(環境新聞社)
特別顧問	阿部 勲	(政治連盟)

日本専門新聞大会フェスティバルに
協賛いただいている企業様

**有限会社
協同新聞出版発送所**
電話：03-3375-3661～2
http://kyoudou-1954.jp/

勝美印刷株式会社
電話：03-3812-5201
https://www.shobix.co.jp

株式会社きかんし
電話：03-5534-1234
https://www.kikanshi.co.jp/

株式会社栄新発送
電話：03-3685-7560
FAX：03-3685-7827

株式会社サンビビジネス
電話：03-3455-5294
https://www.sunbi.co.jp

株式会社晃栄社
電話：03-3814-2646
FAX：03-3812-4365

情報印刷株式会社
電話：03-3262-5740
http://johopt.com

**JAPAN SPECIALIZED NEWSPAPERS
ASSOCIATION**



第76回新聞週間 第30回日本専門新聞

写真コンクール

文部科学大臣賞など 入選作品19点決まる

審査委員長講評



関口 照生氏
日本写真家協会会員
倉敷芸術科学大学客員教授

させ、富山県のおわら祭りの心が伝わってくる大変色気のある作品です。加盟社特別賞は、菊池英紀氏の「番手から虎視眈々」が選ばれました。上手いですね！競輪の

令和5年の専門新聞写真コンクールは、協会の皆様、各加盟社の協力により、協会員はもとより、一般読者の皆様の作品が、第30回の節目の年にふさわしい、総数1048の大台の点数に達しました。嬉しい限りです。

審査は例年通り、関口照生、林義勝、共に日本写真家協会会員の両名が行いました。

最優秀賞、文部科学大臣賞は、一般公募の宮田敏幸氏の「里の秋」3枚組が選ばれました。

秋の定番、紅葉を使わず、一輪のコスモスの背景に白壁の民家、逆光の落日、素朴な社(やしろ)と、大胆な表現の中に静謐さも感じられる見事な作品です。

理事長賞は、一般公募の長谷川裕二氏の「夏、唐津」です。祭りの山車(だし)を引く力強い組み写真です。

全容を写さずとも、この祭りに参加している人達の心意気が伝わり、必至になる姿から祭神への感謝が感じられる秀逸な作品です。

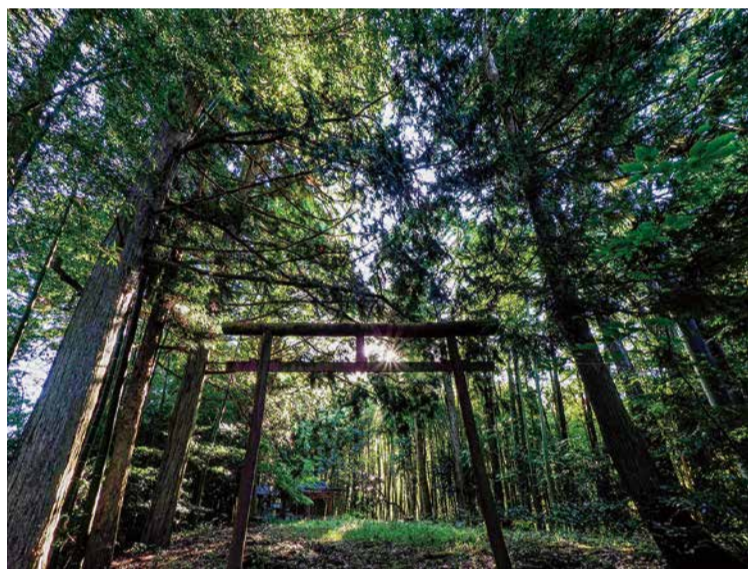
審査委員長賞は、やはり一般公募の「夜舞」林巧氏の3枚組の作品です。

踊り手の顔は見えなくても、静の中の動動の中の静を感じ



特に今年話題になった、A-Iによる写真の作成です、確かに良く出来た作品ですが、人間にはA-Iが越せない心のひだいゆるそれぞれの個性、感性、意志力があります。今後もA-Iの世界にも多くの進化がもたらされると思いますが、それを駆使して、素晴らしい作品に挑戦してください。

公益社団法人日本新聞協会が第76回新聞週間を迎えるにあたり、アマチュア写真愛好家および加盟各社の写真・読者を対象に「第30回日本専門新聞写真コンクール」の作品を募集していたが、審査委員会、理事会でそれぞれの入選作品が決定。受賞者は10月18日の日本専門新聞大会フェスティバルにおいて表彰される。



文部科学大臣賞

里の秋

宮田敏幸 / 一般応募

この度は栄えある賞をいただきありがとうございます。友人が古い街並みが残る里山でピザハウスをオープンするので、その土地柄と一緒に撮影しました。友人が根を下ろす場所、美しい中に歴史の重みを感じながらシャッターを切りました。里山のどこにでもあるような平和な空間に、吸い込まれそうな感覚に襲われました。日頃から自然風景を題材にしていて、人の生活がなんとなく感じられる作品を大切にしております。



理事長賞

夏、唐津！

長谷川裕二 / 一般応募

この度は「理事長賞」を頂き、誠に光栄に思います。佐賀県唐津市では夏になると市内の複数の地域で様々なお祭りが開催されます。今回の作品は特にローアングルからの撮影を意識して躍動感のある作品作りを目指しました。最近はどこのお祭り会場に行ってもお祭りの参加者不足と高齢化の問題を耳にします。この素晴らしい伝統芸能が未来に伝承され、これからも我々を楽しませてくれることを切に願っています。



審査委員長賞

夜舞

林 巧 / 一般応募

この度は栄誉ある賞をいただきありがとうございます。この作品「夜舞」は、富山県を代表する伝統あるお祭りです。八尾の古い街並みを越中おわら節で踊り歩く姿は古き良き日本を感じさせてくれます。今回の撮影では踊り手の哀調、優美らしさを最大限活かせるよう意識してシャッターを切りました。そんな日本の伝統ある行事をこれからもたくさん記録していきたいと思っております。





第76回新聞週間 第30回 日本専門新聞 写真コンクール

加盟社社員・読者及び一般応募 全国から1048枚

文部科学大臣賞		
里の秋(3枚)	宮田 敏幸	一般応募
理事長賞		
夏、唐津!(3枚)	長谷川裕二	一般応募
審査委員長賞		
夜舞(3枚)	林 巧	一般応募
加盟社特別賞		
番手から虎視眈々	菊池 英紀	日刊建設タイムズ社
秀 作		
セカンドプロポーズ	米子久美子	一般応募
北国からの流れ者	吉田隼三	一般応募
時ヨ止マレ	山下一成	一般応募
晴れの演奏会点景(3枚)	平田晃一	一般応募
夫婦の時間	浜口正雄	一般応募
「瓦のおうち」地震でどうなる?	羽田勇司	建通新聞社
都会の狭間、富士に沈む	鈴木克哉	一般応募
奉納の舞	島田純治	一般応募
染めのアーチ	佐藤義敏	環境新聞社(読者)
悪夢、再び～耶馬溪豪雨災害(3枚)	佐藤万実	大分建設新聞社
分校の春(3枚)	櫻井勝美	一般応募
噴水	小嶋涼香	一般応募
金青	海原輝晋	一般応募
ふすまのすきま	小野早苗	一般応募
昔日の面影	赤沼奏空	一般応募



加盟社特別賞

番手から虎視眈々
菊池英紀 / 日刊建設タイムズ社



この度は加盟社特別賞をいただき、ありがとうございます。作品は、千葉県千葉市にある「TIPSTAR DOME CHIBA」で撮影したものです。周長250mのバンクを有し、普段はプロレーサーによる自転車競技「PIST6」が開催されていますが、この日は大学生が集い、トラックレースの大会が行われました。激しいレースの中にあっても、前方を見据える選手の瞳からは、勝機を逃すまいとする集中力が感じられます。

秀 作



セカンドプロポーズ
米子久美子 / 一般応募



北国からの流れ者
吉田隼三 / 一般応募



時ヨ止マレ
山下一成 / 一般応募



「瓦のおうち」地震でどうなる?
羽田勇司 / 建通新聞社



都会の狭間、富士に沈む
鈴木克哉 / 一般応募



奉納の舞
島田純治 / 一般応募



噴水
小嶋涼香 / 一般応募



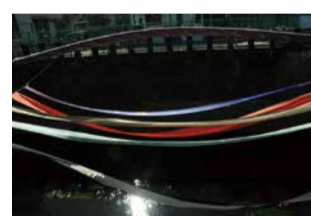
晴れの演奏会点景(3枚)
平田晃一 / 一般応募



金青
海原輝晋 / 一般応募



夫婦の時間
浜口正雄 / 一般応募



染めのアーチ(3枚)
佐藤義敏 / 環境新聞社(読者)



ふすまのすきま
小野早苗 / 一般応募



昔日の面影
赤沼奏空 / 一般応募



悪夢、再び～耶馬溪豪雨災害(3枚)
佐藤万実 / 大分建設新聞社



分校の春(3枚)
櫻井勝美 / 一般応募